


ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>保育科 准教授</p> <p>飯野 雄大 (いの たけひろ)</p> <p>IINO Takehiro</p>
所属	保 育 科
学位	修士 (心理学) (東京都立大学)
資格・免許	<p>中学校教諭一種免許状 (社会) (東京都教育委員会：平 16 中普一第 16468 号)</p> <p>高等学校教諭一種免許状 (地理歴史) (東京都教育委員会：平 16 高普一第 18671 号)</p> <p>臨床発達心理士 (第 01478 号)</p> <p>公認心理師 (第 4425 号)</p>
学歴・職歴	<p><学歴></p> <p>2004年 3月 和光大学人間関係学部人間発達学科 卒業 (学士 (人間発達学))</p> <p>2006年 3月 東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程心理学専攻 修了 (修士 (心理学))</p> <p>2014年 3月 首都大学東京大学院人文科学研究科博士後期課程教育学分野 単位取得後退学</p> <p><職歴></p> <p>2004年 4月 NPO 法人トリニテ 言語療法事業心理指導員 (2023年 3月まで)</p> <p>2005年 8月 八王子市幼稚園巡回相談 発達相談員 (現在に至る)</p> <p>2006年 4月 世田谷区総合福祉センター 児童係心理士 (2010年 3月まで)</p> <p>2006年 7月 調布市あゆみ学園 非常勤心理士 (2012年 3月まで)</p> <p>2007年 4月 文京区小中学校 嘱託特別支援教育巡回相談員 (2014年 3月まで)</p> <p>2010年 4月 杉並区立済美養護学校 非常勤心理士 (2014年 3月まで)</p> <p>2010年 4月 東京都立高等学校 嘱託特別支援教育心理士 (2014年 3月まで)</p> <p>2010年 4月 東京海洋大学海洋科学部 兼任講師 (2014年 3月まで) (担当科目：教育心理学)</p> <p>2012年 4月 和光大学 兼任講師 (2013年 3月まで) (担当科目：教育心理学、初等教育心理学)</p> <p>2013年 5月 世田谷区教育相談室玉川分室 心理教育相談員 (2014年 3月まで)</p> <p>2014年 4月 法政大学キャリアデザイン学部 兼任講師 (2023年 3月まで) (担当科目：臨床教育相談論Ⅰ、臨床教育相談論Ⅱ)</p> <p>2014年 4月 白梅学園大学子ども学部発達臨床学科 特任講師/発達・教育相談室相談員 (2019年 3月まで) (担当科目：幼児理解と教育相談、保育の心理学、保育臨床 相談、保育内容人間関係、教職実践演習、質的 方法論等)</p> <p>2019年 4月 東京都特別支援教室 巡回相談員 (2023年 3月まで)</p> <p>2020年 4月 東京都立大学人文社会学部 兼任講師 (2023年 3月まで) (担当科目：教育心理学)</p> <p>2021年 4月 東京都立永福学園就業技術科 外部専門家嘱託心理士 (2023年 3月まで)</p> <p>2023年 4月 山梨学院短期大学保育科 准教授 (現在に至る)</p> <p>2023年 4月 山梨県幼児教育アドバイザー (現在に至る)</p> <p>2024年 4月 山梨学院短期大学 学生部長 (現在に至る)</p> <p>2024年 4月 和光大学現代人間学部 非常勤講師 (現在に至る) (担当科目：発達臨床心理学)</p>

担当科目	教育相談 特別支援教育論 インクルーシブ保育Ⅰ 家庭問題特論Ⅰ 障害児保育特論 保育実習指導Ⅰ（施設） 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅰ 保育実習Ⅲ（施設） 基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ 修了研究	
専門分野	教育相談 臨床発達心理学	
現在の研究テーマ	保育者・教員のインクルーシブ保育・教育に関する専門性についての研究 保育者・教員の「所属感（Sense of Belonging）」の形成に関する研究	
競争的資金等の研究課題	「保育における協同的な活動を支える子ども参画型アセスメントシステムの開発」 科学研究費基盤研究（C） 分担研究者（課題番号：22K02440）	
所属学会	日本発達心理学会 日本教育心理学会 日本保育学会 日本特殊教育学会 日本心理学会 日本臨床発達心理士会	
メッセージ	保育現場は、多様化する社会の中で、様々な子どもや家族と関わる最前線です。子どもたちを支えながら、自分自身もケアできるような保育者になってほしいと思います。短大という場で、他者と関わりながら「自分」への理解を深め、多様な立場を想像して自ら学んでいけるよう、教員の立場からお手伝いしたいと思います。	
教育		
2025年4月～2026年3月		
教育方針	多様な子どもたちの視点に立てる保育者・教員を養成したいと思っています。学生の自発的な学びの姿勢を養っていけるような教育を目指したいと考えています。	
授業	授業の工夫	<家庭問題特論Ⅰ> 家族にかかわる諸問題について、学生の関心を踏まえながらグループを分け、昨今のニュースや関連する研究を調べる取り組みを行っている。最終的には、グループごとにテーマを決め、各自が関心を持って調べた事柄でプレゼンテーション資料を作成・発表し、家族についての問題について議論している。
	授業改善のための取組	保育・教育現場に心理職として入り、そこでの業務を通して、昨今の保育・教育現場の課題を把握し、授業に反映できるようにしている。また、調査研究を通して論文の執筆に取り組むとともに、関係する諸学会への参加発表を行い、最新の研究知見に触れ、学生へ還元できるようにしている。

教育 (つづき)		
2025年4月～2026年3月 (つづき)		
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	学生の興味関心によってさまざまなテーマを受け入れているが、多くの場合は心理学に関する論文の購読を通して、研究倫理やデータ収集の方法を学んでいる。特に、インタビューの実施やアンケートの作成をする学生が多いため、質問項目の検討、データ分析の方法、倫理的事項について学んでいる。
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<p><卒業レポートの主なテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽と感性の関係性 ・ペットロスがおこる要因と立ち直り方について ・現代の大学生における恋人と結婚相手に求める条件 ・「SNS映え」に対する若者の価値観と心理について ・日本と外国の絵本の描かれ方の違い ・自己肯定感を育む関わり方—保育者の関わりから考える— <p><修了研究の主なテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校現場において「気になる子」への教師の関わり方—働きかけのタイミングに着目して— ・保育者養成校における各種実習において学生が受けるストレスとコーピング ・保育現場における管理職の不適切保育に対する意識とリスクマネジメントについて ・幼小接続における保育者・教師の働きかけの意義と課題—幼小9年間の国際バカロレア認定校に視点をあてて—
課外活動	—	
2025年3月以前		
主な教育業績	<教科書の執筆>	<p>幼児理解と教育相談：保育者が行う保護者の支援と相談（共著） （2025年10月）ミネルヴァ書房</p> <p>すべての子どもの権利を実現するインクルーシブ保育へ（共著） （2023年4月）ひとなる書房</p>

研究		
2025年4月～2026年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（著書） 幼児理解と教育相談：保育者が行う保護者の支援と相談 （共著）	2025年10月	ミネルヴァ書房（全210頁）
（学術論文） 中学校の通級指導教室と通常学級の協働的な校内研修の事例的検討ー教員の省察と教員間連携に注目してー （共著）	2026年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第46巻
2025年3月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（著書） すべての子どもの権利を実現するインクルーシブ保育へ （共著）	2023年4月	ひとなる書房（全208頁）
（著書） 特別支援教育における学校・教員と専門家の連携 （共著）	2022年10月	ジアース新教育社（全267頁）
（著書） 臨床発達心理学・理論との実践① 臨床発達心理学の基礎 第2版 （共著）	2016年4月	ミネルヴァ書房（全240頁）
（著書） 子どもと保育者の物語によりそう巡回相談：発達がわかる、保育がおもしろくなる （共著）	2016年4月	ミネルヴァ書房（全252頁）
（著書） ディスコースの心理学：質的研究の新たな可能性のために （共著）	2015年4月	ミネルヴァ書房（全235頁）
（著書） 仲間とともに自己肯定感が育つ保育：安心のなかで挑戦する子どもたち （共著）	2013年9月	かもがわ出版（全154頁）

研究 (つづき)		
2025年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(著書) 臨床発達心理学・理論との実践① 臨床発達心理学の基礎 (共著)	2011年 2月	ミネルヴァ書房 (全240頁)
(著書) 発達障がい児・気になる子の巡回相談:すべての子が参加する保育へ (共著)	2009年 8月	ミネルヴァ書房 (全218頁)
(学術論文) 特別支援教育における所属感に関する文献的検討:通級指導教室に焦点を当てて (共著)	2025年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第45巻
(学術論文) 事例を通して考える療育の意義と課題:家族支援・地域支援とのつながりから (単著)	2022年 2月	季刊保育問題研究 313号 (pp. 72-81) 新読書社
(学術論文) コロナ禍で保育者はどのように保育をしているのか—障がい児および外国人幼児を含む保育の実態調査 (速報) (共著)	2021年 3月	帝京大学教育学部紀要第9号 (pp. 115-123) 帝京大学
(学術論文) (査読付) 乳幼児教育における所属感 (Sense of Belonging) に関する文献的検討 (共著) <外部リンクあり>	2020年 12月	心理科学 41巻2号 (pp. 37-47)
(学術論文) (査読付) 自閉症スペクトラム児を持つ母親が経験する「デイリーハッスル」 (単著) <外部リンクあり>	2020年 12月	心理科学 41巻2号 (pp. 1-15)
(学術論文) 発達障害児を持つ保護者への地域における支援についての考察 (単著)	2019年 3月	白梅学園大学・短期大学紀要 第55号 (pp. 39-52) 白梅学園大学

研究 (つづき)		
2025年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) 地域における発達支援システムの検討：小平市での幼児期から学童期までの途切れのない相談拠点の構想 (単著)	2018年 3月	白梅学園大学・短期大学紀要 第54号 (pp. 69-84) 白梅学園大学
(学術論文) 保育者と関係を作りにくい子：「なつかない」というとらえ方を再考する (単著)	2016年 12月	児童心理 12月号臨時増刊 第70巻第19号 (pp. 104-108) 金子書房
(学術論文) 発達・教育相談室を窓口とした地域連携：つながる・ひろがる・つくる (単著)	2016年 8月	地域と教育 第32号 (pp. 45-48) 学校法人白梅学園)
(学術論文) 幼稚園における巡回相談ニーズの検討：巡回相談を多く利用する幼稚園でのグループインタビューを通して (共著)	2013年 3月	人文学報 第501号 (pp. 7-25) 首都大学東京人文科学研究科
(学術論文) 広汎性発達障害児を持つ母親の就学支援に対する認識－インタビューを用いた探索的検討－ (単著)	2010年 3月	世田谷区立総合福祉センター紀要 第19号 (pp. 22-42) 世田谷区立総合福祉センター
(学術論文) 軽度発達障害がある年長児へのグループ療育 (共著)	2009年 3月	世田谷区立総合福祉センター紀要 第18号 (pp. 22-33) 世田谷区立総合福祉センター

<p>社会貢献</p> <p>産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等</p>
<p>2025年4月～2026年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立短期大学協会学生生活委員会委員（2024年4月～現在に至る） ・日本臨床発達心理士会全国大会運営委員会委員（2024年4月～現在に至る）
<p>2025年3月以前（主なもの）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八王子市学校と家庭の連携推進事業 スーパーバイザー（2020年9月～2024年3月） ・八王子市中学校校内研修会 講師（2020年度、2021年度、2022年度） ・八王子市幼稚園障害児等保育研修会 講師（2005年度～2017年度） ・知能検査K-ABC2作成 標準化検査テスター（2009年4月～2010年3月） ・杉並区立済美養護学校研究部主催研修会 講師（2011年9月） ・特別支援学校新宿エリアコーディネーター主催研修会 講師（2012年8月） ・板橋区保育者研修会 講師（2015年5月） ・新宿区幼稚園・小学校・中学校教員研修会講師（2016年2月） ・小平市発達支援相談拠点検討委員会 委員長（2016年4月～2017年3月） ・新版K式発達検査2020作成 標準化検査テスター（2017年2月～2019年3月） ・小平市小学校・幼稚園・保育園連絡会講演 講師（2018年2月） ・小平市発達支援センター検討委員会 委員長（2018年4月～2019年3月） ・千代田区子ども園研修会 講師（2018年10月） ・小平市私立保育園連絡会主催学習会 講師（2018年11月）
<p>受賞 ※個人、所属団体</p> <p>—</p>